



# 父母と学ぶ会だより

NO. 24 研修報告号～H27年9月発行

静岡市社会福祉法人経営者協議会他2団体  
平成27年度第1回合同研修会報告

## 「絵本のある子育て～読み聞かせを楽しみましょう～」

講師 静岡市立南部図書館 館長 小林 元子  
児童サービス係 澤田 隼一

8月5日に第1回合同研修会に行ってきました。絵本の読み聞かせを楽しくするにはどのようにしたらいいのかを学んできました。

まず、読み聞かせのメリットについての説明です。読み聞かせは日本語の言葉の引き出しとなる役割があります。言葉の宝庫である絵本に触れることで多くの言葉の引き出しになります。さらに、それを文脈の中で使える言葉として記憶することができます。またイメージする喜びを知るといふ役割もあります。誰かの経験話を自分の経験のように受け取る能力を養い、それが言葉からより想像することに繋がります。高齢者や障害をもつ方の場合については①自ら読むことが難しい人たちへの読書支援②心の安らぎと時間の提供③脳の活性化、老化防止、機能の回復や感情豊への手助け④周りの人達と共有する時間で他者との感情の交流があります。

次に絵本の選び方についてです。選び方のポイントとして、聞き手の年齢や発達に合わせた絵本を選ぶことです。読み聞かせの場合①少し内容がやさしいもの②聞き手の反応に合わせられるようにする③読む絵本よりやさしい絵本を予備で数冊用意することがあります。

最後に絵本の読み方についてです。基本的に聞き手が椅子に座っているときは読み手は立ちます。聞き手が床で聞く場合は読み手も座ります。読む際はページをめくる際に一番絵に集中する時なので少し間をとります。読む前と読んだ後は必ず表紙を見せます。物語は表紙から入ることで、話の世界に入りやすくします。また、絵本の作者や作画家の紹介をすることで次の絵本へのステップに繋がります。絵本を読んでいく時のポイントは①物まねや声色は使わず、演技はしないこと②読み聞かせ中の話しかけはしない（絵本ではなく読み手に注意がいつてしまう）③話の進み具合や場面によって、メリハリをつけるといった3つのポイントがあります。

今回の研修に参加して本の読み聞かせをする時にどのようなことに気をつけるべきか改めて学ぶことができました。ゆいまあるでも読み聞かせの時間があるので本を読む際は皆さんが楽しく聞いていただけるようにしていきたいと思います。  
(文責 溝口 諒)

## 静岡市立図書館紹介



図書館員の方が選んだおすすめの本が載っています

このほんば～った!  
(静岡市立図書館発行)



# 研修報告



## 「自閉症の特性理解と支援の基本」～講師 中山 清司～

H27年7月7日（火）

私は自閉症支援講座を受講しました。講座は、「自閉症の特性理解と支援の基本」というテーマでした。私は今まで障害者の人と深く接したことは無く、ゆいまあるで働いてから約半年が経過しました。日頃利用者さんと接してみて、私たちとは違い、なぜこのような行動をするのか疑問に思うこともありました。講座でも行動についての話もあり、そうだったのかと納得することができました。

自閉症には主に①社会性の障害②コミュニケーションの質的障害③こだわりと想像力の障害という3つの障害があります。まず社会性の障害として、人をあまり意識しなかったり、または過度に意識したりすることがあります。また、人とのやりとりに偏りがあり、積極的に人に関わってきたり、そうではないこともあります。

次に、コミュニケーションの質的障害として、言葉を発しないこと、言葉を理解できていないこと、一方的に話してきて、会話のキャッチボールができないことがあります。

最後にこだわりと想像力の障害として、同じ行動を繰り返したり、物の位置や向きにこだわるがあります。また、経験していないことや、目に見えないことを想像することが難しいことがあります。

この他にも様々な障害がありますが、これらを支援者が理解した上で支援にあたらなければいけません。また、一括りに自閉症といっても、一人一人の特性に違いがあります。例えば、一度に多くのことを言葉で伝えても理解できない人には、動作ごとに短い指示を与えた方がスムーズに伝わるでしょう。言葉そのものを理解出来なくても、写真や絵カードなら混乱することなく指示を理解してくれるかもしれません。

最後になりますが、すぐに目に見える効果もでないでしょう。しかし、継続しなければその効果も現れません。効果が現れると信じて支援を継続していきます。

（文責 平井 勝）



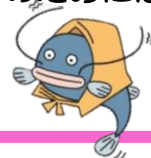
## 帰宅訓練を実施しました

H27年6月17日（水）

東海地震が起こると言われ30年以上経過し、現在ではいつ起きてもおかしくないと言われています。東海地震の規模は震度6強程度になると予測されています。このような状況では人は立っていることは出来ず、這わないと行動できなくなります。地震の影響により、家屋の倒壊、津波の発生、電気・水道・ガス等ライフライン供給の停止等様々な被害が想定されます。

ゆいまあるでは地震に備え月に一度避難訓練をしていますが、この延長の位置づけとして6月17日に帰宅訓練を実施しました。今回は東海地震予知情報が発令されたと想定し実施しました。訓練では職員を待機班と送迎班に分け、それぞれの役割を確認しました。もしもの際は迅速な行動をしていきます。

最後になりますが、災害はいつ発生するか分かりません。そのためには日頃の備えと、防災意識をもつことが重要です。



（文責 平井 勝）